

主な水産用語の解説

本書に記載する主な水産用語は次のとおりです。

アーカイバルタグ 記録型電子標識。魚の遊泳中の環境

水温・水深・照度などを記録するもの。

外套長

イカ・タコ類の内蔵を覆う膜状に伸びた体表の長さ。

加入（加入量）

ある年に生まれた水産生物が成長して漁場に現れ、漁獲の対象となる時点や状態。加入量は、こういった時点や状態に達した水産生物の数や量。

空釣り縄

餌の付いていない釣り針を海底をはうように敷設し、魚体を引っ掛けて釣るはえ縄漁法の1つ。

完熟卵（水子）

卵巣内の卵が成熟し、卵粒が急激に大きくなって透明になった状態。

許可漁業

水産資源の保護あるいは漁業調整のために、一般には禁止している漁業を一定条件のもとに解除する漁業。知事許可漁業と大臣許可漁業がある。

漁獲努力量

漁獲にどれだけの努力を払ったかを表す量で、資源からの間引きの強さに比例する。出漁日数、隻数、ひき網回数、反数（網の長さ）、針数など。

漁業権

都道府県知事の免許により、公共水面の区域を限って、特定の漁業を排他独占的に営むことのできる漁業の権利。定置、区画、共同の3種類がある。

許容漁獲量

資源の管理において、その資源から漁獲によって間引かれることが許される量。この範囲内で漁業を行う制度を許容漁獲量制という。

系群

資源の変動などを考える際の単位となる群れのこと。産卵場、分布、回遊などの違いにより区分される地域集団。系統群ともいう。

甲長

エビ、カニなど甲殻類の甲らの長さ。

コホート解析

年齢別漁獲尾数から漁獲死亡と自然死亡を考慮し、年齢別資源尾数を求める方法。

再生産

生物資源が次代の資源を産み出すこと。繁殖と同義にも用いられる。

索餌

餌を探し求めること。

CPUE (catch per unit effort) 単位努力量あたり

漁獲量（尾数）のことで、その多少が一般的に資源量の指標となる。1日1隻あたり漁獲重量や1カゴあたり漁獲尾数など。

資源回復計画

国、または都道府県が、資源状況の悪化がみられる水産資源について、早急に資源を回復させるため、関係漁業者等が取り組むべき漁獲努力量の削減措置や資源の培養対策、公的規制や支援措

置、資源回復の達成目標等を定めるもの。

資源管理協定

水産資源を適切に管理し、合理的に利用するため、体長制限や漁場移動等の資源管理措置、罰則規定等を定めた漁業者団体相互による自主的な水産資源の管理に関する協定。

資源管理計画

本道周辺海域において、水産資源の水準や地域の実情等に応じ、漁業者による資源の管理措置、資源の増大対策、経済的有効利用の促進や漁場環境の保全等に取り組むために漁協等が自主的に定める計画。

資源量（資源重量・資源尾数）

ある生物の集団に含まれる生物の総量で、資源重量は重量で表したもの、資源尾数は尾数で表したもの。

資源量指数・資源密度指数

資源量や資源密度を相対的に示す指標であり、経年的に比較することで水準や動向を把握することができる。資源量指数は、分布域内に設けられた調査エリアごとのCPUEや分布密度をそれぞれのエリアの面積で重み付けし、それを合算したもの。資源密度指数は、資源量指数を分布域の全面積で除した値。

耳石

魚類の内耳にある炭酸カルシウムの結晶からなる組織である。年齢や日齢を調べる形質として使用される。

仔稚魚

一般的に、卵からふ化し、外見が成魚と大きく異なる状態のものを仔魚、発育が進み外見が成魚と同様になり、ふ化後1年に達するまでのものを稚魚と呼び、これらを合わせて表現する場合の呼称。

種苗

水産では増養殖に用いる稚魚や稚貝など。天然採集、人工採卵、および飼育によって得られる。

成熟卵

受精可能となった卵。完熟卵ともいう。

全長

動物の体の前端から後端までの長さ。

体長

魚類では、上顎の先端から尾びれを支える骨の基部までの距離。本書を含む水産資源一般では、計測の簡便化のために、上顎の先端の代わりに、体の最前端を用いることがある。

TAC (タック) 「total allowable catch : 総漁獲可能

量」の略。魚種ごとに漁獲できる総量を定めることにより、資源の維持・回復を図る資源管理の手法の1つ。我が国では、現在「漁業法」に基づいて、クロマグロ、サンマ、スケトウダラ、スルメイカ、ズワイガニ、マアジ、マイワシ、マサバ・ゴマサバで定められている。

卓越発生

年級群（後述）の発生量が、他の年に比べ極端に多くなる現象。また、卓越発生した年級群を卓越年級群と呼ぶ。